

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成29年度 第3回伊達市放課後子ども教室運営委員会議		
議 題	議事 ① 平成29年度事業総括について ② 平成30年度事業予定案について ③ 伊達西小学校放課後子ども教室アンケート調査について		
開催日時	平成30年3月22日（木）18：00～19:30		
場 所	伊達市役所第2庁舎会議室1		
出席委員	小林浩路 委員長、馬場一憲 委員、武者ますみ 委員 勝木真弓 委員、藤本恭子 委員、星洋昭 委員（計6名）		
	所管部課名	教育部生涯学習課	
公 開 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開会（事務局：社会教育係長）</p> <p>2. 生涯学習課長挨拶（教育長・部長代理）</p> <p>3. 協議</p> <p>（1）平成29年度事業総括について</p> <p>（2）平成30年度事業予定案について</p> <p>（3）伊達西小学校放課後子ども教室アンケート調査について</p> <p>【レジュメに基づき事務局より説明】</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p>□委員</p> <p>1月の「遊び・交流・体験の日」（以下、「体験の日」と記載。）に見学に向った際の感想になりますが、放課後子ども教室が始まる前の、児童集合時には、安全管理人の方々が連携し、事業の環境づくりに尽力されていたことが印象に残っています。また、集合した児童の一人が、教室の電気が消され暗転するとの説明を受け、戸惑いの表情を見せていましたが、コーディネーターの方が適切な対応をされており、放課後子ども教室ボランティアスタッフ（以下、ボランティアスタッフ）の方々の働きに感心しました。</p> <p>□委員</p> <p>体験の日には、学習の日の児童の表情とはまた異なり、その日に作成したものを使って、放課後児童クラブにて遊んだり、楽しんだりする様子が見受けられます。</p> <p>□委員</p> <p>私は低学年の学習の日に見学に向いました。ボランティアスタッフの方々と、児</p>			

童との触れ合いに落ち着きがあり、また、参加児童のなかには学習プリントに意欲的に取り組んでいる子どももあり、良い雰囲気であったとの印象を持ちました。ただ、学習形式として、机や椅子を使用しない座卓学習でしたが、何かの意図があつてのことなのでしょうか。

●事務局

1・2年生が視聴覚室を使用して座卓学習形式で実施しています。これは、多目的室の机や椅子の大きさが、小学校低学年の児童の体格に合わないことから、視聴覚室に場所を変更したためです。小学校教師経験者のボランティアスタッフから、児童には固定された机で学習を行うのが良いのではないかとの助言を受け、平成30年度からは、同校の家庭科室か理科室にて行う予定でいます。

□委員

資料によると4年生・6年生の放課後子ども教室参加率が低いように感じますが、当初の事務局の想定と比較してどのように考えていますか。

●事務局

実施前の想定では、伊達西小学校児童数の3割（約100人）ほどの参加人数を見込んでいました。実際の申込状況から推測すると、高学年になると習い事の参加や自身の参加意志などが、申し込みや参加率が低い理由と考えています。

□委員

「体験の日」のみの参加は可能ですか。

●事務局

「体験の日」のみの参加も可能です。

□議長

学習の日のプリントの難易度は児童にとって難しくはないですか。子どもたちは、通常の授業後に子ども教室に参加しているため、大変だと感じている児童もいるのではないですか。

●事務局

高学年の児童の多くは、意欲的に取り組んでいます。低学年は、集中して取り組める子どもと、そうではない子どもの二極化が見受けられます。そのため、低学年に対しボランティアスタッフを重点的に配置すべきとの印象を持っています。

□委員

プリント学習という題材の難しさを感じます。理想としては、一人一人の児童の段階にあった学習プリントを用意し、取り組ませるべきかと思いますが、現状では様々な課題があり難しい印象です。

□議長

長和小学校の場合は、伊達西小学校を踏襲する形での取り組みになるかと思いますが、実施するなかで、低学年、中学年、高学年と分かれることも考えられますか。

●事務局

曜日によって各学年の授業終了時間が異なるため、事業の種類によって、学年を一緒にするか、分けて実施するかの配慮はしたいと思います。

□委員

平成29年度について、年度途中での放課後子ども教室への申込みはありましたか。

●事務局

ありました。開始数カ月で8人程度増えましたが、年度の途中から退会する児童が増えて、最終的には事業開始時点の登録者数を下回りました。

□委員

現在の長和小学校の児童数は何名ほどですか。

●事務局

児童数は約90名ほどです。伊達西小学校児童数の3分の1以下の人数ですが、小規模校での特徴である学校全体的な緊密さがあることから、全校児童数に占める参加者の割合は、伊達西小学校よりも長和小学校の方が多くなるのではないかと想定しています。

□委員

私の方でも児童クラブに在籍している子どもや保護者の方に子ども教室を紹介しましたが、保護者の方が子ども教室に行かせたいと考えていても、子ども自身が行きたくない意思を持っている場合もあり、難しさを感じました。

しかしながら、子ども教室参加している児童クラブ在籍の子どもの感想を聞くと、学習の日に参加している児童も「体験の日」同様に楽しんで活動しているようです。

当初の私や周囲のイメージとしては、子ども教室に通うことで、学力が向上したり、勉強に意欲的になったりするのではないかと考えていました。実際には、大人数での実施となると、ひとりひとりの児童に対して、きめ細かい対応するにはボランティアスタッフが足りないことや負担が大きいみたいです。

□委員

アンケートの内容に「実際にどのような人がボランティアスタッフとして活動しているのか分からない」との声がありますね。

●事務局

このご意見に関しては、ボランティアスタッフがどのような素性、性別、年齢の人なのか分からない不安な気持ちの現れだと考えております。子ども教室がもっとオープンに認識されるよう考えなければなりません、見学は随時可能ですので、ぜひ気軽に足を運んで、子ども教室をもっと知ってもらえればと思います。

□議長

実際に見学のために足を運んでいる人はいますか。

□委員

子ども教室のお迎えを兼ねて「体験の日」に見学に来られた方は数名いらっしゃいました。

□議長

学校の教員の方もお見えになりますか。

□委員

数回見学にいらっしゃっています。校長先生、教頭先生、特別支援学級の先生などでした。

□議長

実特別支援学級の児童も子ども教室に通っているとのことでしたが、対応などに関してはどうですか。

□委員

特別支援学級の児童も熱心に取り組んでいます。「体験の日」のみに参加する特別支援学級の児童もあり、その際のお迎えについては、毎回同じボランティアスタッフが担当し、全体での活動の際には特に気にかけて見守っています。

しかし、なかには、子ども同士での取り組みが難しい児童もあり、その際には、ボランティアスタッフが間に入る配慮もしています。そういった点からも、ボランティアスタッフの拡充が必要だと感じます。

□議長

ヒップホップダンス体験の日に見学にお邪魔した際には、特別支援学級の児童がおり、ダンスに参加こそしていませんでしたが、ダンスを見学しており、こういった参加の方法もあるとも感じました。

□委員

学習指導員のボランティアスタッフの方が、子どもと一緒に考えて考えることは可能なのでしょうか。

●事務局

はい、可能です。具体的には、低学年に対して答えを直接教えるのではなく、答えの導きだすヒントを与える方法で行っています。また、子どもたちからすると、学習指導員も安全管理人も同じ子ども教室の先生との認識なので、ボランティア側も特に区別すること全員で対処しています。

□議長

学習指導員と安全管理人の役割を交代して行うことで、元教員のスキルを子どもたちにヒントを与える際に生かせるのではと思いますが、どうでしょうか。

□委員

現場サイドとしては、学習指導員と安全管理人の役割を分けて行うことに、あまり意味はないのかと考えています。やはり子どもにとっては学習指導員も安全管理人も同じスタッフとの認識です。

□委員

以前の会議では、学校の指導方法と違うため、子どもに勉強を教えることは難しいとのことでしたが、実際のところはどのようなのでしょうか。

●事務局

指導方法が違うために教えることが難しいというよりは、答えを導く方法は同じでも、細かい部分の記載方法が違うといった点などが、学校での指導と異なっていたりすること。学校側の指導とかけ離れた説明にならないように配慮をしているところです。

□委員

ただ、子どもによると、先生によって教え方が違ったり、教科書の答えとは違う表現でも正解だったりする場合もあるとのことなので、子ども教室としては解答における教科書記載方法をベースして何らかの工夫は必要だと感じます。

□議長

たとえば、漢字の問題プリントでいえば、読めないものは読めないのだから、読み方を教えなければいけないといった場合はありますね。

□委員

そうですね。特に漢字の「書き」の問題は書き順、止め、ハネといった点を教えることは大変難しいので、回答がはっきりしている「読み」の問題を行っています。漢字が読めないのであれば、読み方だけではなく、その意味を教えることも必要だと思い実施しています。

□委員

感想なのですが、子ども教室終了後、ほしのご児童クラブへ登所する際に、ボランティアスタッフの方がしっかりと子どもたちを誘導してくださり、助かっています。

□議長

次年度を迎えるにあたっての評価のできる点などございましたら、意見交流ができたと思います。

□委員

まずは、この1年子どもたちがケガなく終えることができ良かったと感じています。ただし、低学年の児童だと、子ども教室の実施日の理解がなかなか難しく、教室まで迎えに行っても既に行かない場合や、高学年では保護者が出席で提出していても、子ども自身の意思で欠席（帰宅）してしまう場合などがありました。その際には保護者に電話連絡を行いますが、仕事で受話できないなど、対応に苦慮するときもありました。ただ小学校高学年の年頃であれば、自分の意思で帰りたい気持ちがわくのも理解はできるため、難しさを感じました。

4. その他

- ・平成30年度の放課後子ども教室の体制について
- ・放課後子ども教室と放課後児童クラブの有機的な運営について
- ・放課後子ども教室ボランティアスタッフの募集について

5. 閉会（小林委員長）